



2019 ニュージーランド姉妹校交流 特集

ニュージーランドは人口が約 470 万人ながら多様な民族が共存し、豊かな資源に恵まれた国です。質の高い教育も魅力となり多くの留学生を受け入れています。8 校ある国立大学のすべてが世界の大学ランキング上位 3% に入るそうです。特にダニーデンは、オタゴ大学を中心に教育機関が集中した町で、その高台に位置する姉妹校のコロンバカレッジは名門校として知られています。本研修の最大の特長は、ホストファミリーやバディなど、人々との交流を通して現地の文化や自然を体感することにあります。ダニーデンはそれを実現するうえで最高の環境であったと感じています。ホストファミリーも学生・先生方も大変親切で、温かく我々を受け入れてくださいました。バディとともに参加した授業や寄宿舎生活は、観光旅行では味わえない貴重な体験で、ダニーデンでの美しい街並みとともに参加者の心に刻まれました。

① Meeting with Host Families

8 月 1 日（木）京成上野駅を出発してから、オークランドでの乗り継ぎ時間を含めると、20 時間を超える長旅でした。ダニーデンの空港では、コロンバカレッジの先生に温かく迎えていただき、マイクロバスで学校に向かうといよいよホストファミリーとの対面です。ホストファミリーとはあらかじめメールでやり取りをしていたこともあり、直接会えることを大変楽しみにしていました。最初は緊張もありましたが、コロンバカレッジがウェルカムティーパーティーを用意してくださったおかげで、互いに打ち解けた様子で各家庭に向かうことができました。週末は各自ホストファミリーと充実した時間を過ごしました。

② School Life & Field Work

8 月 5 日（月）、コロンバカレッジでの学校生活が始まりました。バディとともに、1 日授業に参加する予定でしたが、1 限開始 5 分後、なんと雪により休校が発表され、寮生以外の学生は下校することになってしまいました。急遽予定を変更し、午前中は寮生にキャンパスを案内してもらった後、マオリの言語・音楽・美術の授業を体験しました。それまでマオリ文化にはあまり馴染みがありませんでしたが、実際に話したり、歌ったりすることで身近に感じることができました。午後は市内のオタゴ入植者博物館に行き、ダニーデンにおける移民の歴史を学びました。そして、コロンバカレッジの学生寮生活が始まりました。寮での過ごし方に関するオリエンテーションを受け、起床・就寝や食事等に関するルールを学びました。ダイニングルームやシャワールームの様子も日本では味わえないもので、4 泊の寮生活体験が一層楽しみになりました。

8 月 6 日（火）、コロンバカレッジでの授業に参加しました。朝のミーティングでバディとともに予定を確認した後、一緒に教室に向かいます。それぞれのバディとともに、science、economics、drama などの授業に参加しました。どの授業も楽しんで受けることができました。また、授業中積極的に発言したり活動したりするコロンバカレッジの生徒の様子にも刺激を受けました。

授業の後は、オタゴ大学に隣接するオタゴ博物館を訪れました。オタゴ博物館は 150 年以上もの歴史があり、マオリの伝統文化をはじめ、オタゴ地方の繁栄について学ぶことができます。ガイドさんの説明は情報に富んでいて、英語を聞き取るのが大変でしたが、非常に興味深い内容で集中しました。早くも寮生活には慣れ、コロンバカレッジとの寮生とも交流をし、楽しい時間を過ごしました。

8月7日(水)、オロコヌイ・エコサンクチュアリーでのフィールドワークでした。オロコヌイ・エコサンクチュアリーは、ニュージーランド固有の鳥類や爬虫類など多くの野生生物が生息する保護区で、面積は300ヘクタールにも渡ります。Kiwiは夜行性ということもあって残念ながら遭遇することはできませんでしたが、KakaやTakaheといったニュージーランド固有の鳥たちをすぐ近くで観察することができました。Kakaの羽は、かつてマオリ族の首長だけが身に着けることを許された貴重なものだったそうです。スタッフの方の説明から、ニュージーランドの自然や野生動物を大切に保護する姿勢が伝わってきました。

エコサンクチュアリーに向かう前、pavlovaというニュージーランドの伝統菓子を焼きました。ニュージーランドでは誕生日やクリスマスなど特別なお祝いなどでよく食べられるそうです。帰校後、ホイップクリームやフルーツをのせていただきました。レシピももらうことができ、日本に帰国してから再チャレンジした生徒もいます。大変おいしく焼き上がり、大成功でした。

8月8日(木)、早くもコロンバカレッジでの授業は最終日になりました。1・2限はJunior Schoolで日本での生活の様子を紹介したり、折り紙を教えたりしました。折り方のシンプルなインストラクションほど、英語で分かりやすく説明するのは意外と難しく奮闘していましたが、小さな子どもたちも興味をもって真剣に取り組んでくれました。昼休みには、全校集会でプレゼンテーションの発表を行いました。長期間かけて準備をしてきたプレゼンテーションだったので、コロンバカレッジの生徒たちが積極的に反応してくれて、非常に達成感がありました。個別にバディからも褒めてもらい、とてもうれしかったです。午後はバディたちとの最後の授業になりました。別れを惜しみつつも、お互いの連絡先を交換したので、今後も交流が続くことと思います。

8月9日(金)、早朝、バディたちとの別れを惜しみつつダニーデンを立ち、午後にオークランドに到着しました。訪問先であるオークランド工科大学(AUT)では、時期を同じく訪問されていた東京都教育委員会やEducation New Zealandの方々とともに昼食に招待していただくといううれしいサプライズがありました。その後1時間ほどAUT内の研究室を案内していただきました。デジタルアニメーションの機器に実際に触れたり、デジタルとアートを融合させた学生の作品を見学したりすることができ、新鮮な体験でした。また、日本語の授業を受講しているAUTの学生に向けてプレゼンテーションを行い、AUTのスタッフや教育委員会の方々からフィードバックを得ながら、有意義なディスカッションをすることができました。半日という非常に限られた時間でしたが、多くのことを経験し、研修の最終日にふさわしい、充実した時間となりました。